



読みづらいことに気づいたら その子に合った工夫を探そう

インクルーシブ教育研究者・博士(障害科学) 野口晃菜

今回のでこぼこポン!のテーマは「本が読めない」です。

でこりんのように、文字を読むことが難しい子どもがいます。でこりんのように、文字が逃げていくように見える子もいれば、にじんで見えたり、揺らいで見えたりする子もいます。例えば、音読をするときも一文字ずつしか読むことが難しかったり、読み間違えが多かったり、読んでいても意味が分からなかったりします。読むのにかなり時間がかかり、「読むこと」にもものすごくエネルギーを使い消費してしまいます。

その子にとって文字がどのように見えているのか?はその子にしかわからなく、文字以外のものを見ることには特に困らないこと、また、でこりんがぼこすけの見え方に対して驚いていたように、その子自身も他の子がどう見えているかわからないため、なかなか本人周りの大人も見え方のちがいに気づきにくいです。文字を見てもすぐに読むことが難しかったり、一文字ずつ指をさして読むことが続いたり、音読の後に疲弊している様子が見られたら、もしかしたらでこりんのよう見え方が違うのかもしれませんが。周りの子は上手に音読ができているのに、自分だけできない…と自分を責めてしまったり、やる気がないといわれて自信を失ってしまったりすることもあるため、なるべく早くにその子の見え方の違いに気が付き、支援をすることが大切です。

番組で、でこりんは「きかせジョーズ」を発明して、ジョーズが読み上げをすることでぼこすけの書いた本を理解をしていました。同じように、パソコン、タブレットの読み上げ機能を活用することで、読むのではなく聞くことで理解をすることができます。ジョーズの充電が切れた後は、読む文章を定規で挟んで他の文章を見えなくすることで、読みやすくなっていました。このように、定規を添えたり、読むべき箇所のみを見えるような工夫をしたりすることで読みやすくなる子どももいます。その他にも例えばフォントを変える(UDフォントやゴシック体が読みやすいといわれていますが、一人ひとり読みやすいフォントは違うので比較して確認してみましょう)、行間を空ける、単語と単語の間を区切る、などの工夫があります。子どもにとって読みやすい工夫はなにか?本人の意見を聞きながら探してみましょう。

読みに困難がある場合、例えば受験時に読み上げや時間延長、別室受験などの合理的配慮を受けることもできます。子ども自身が文字の見え方にちがいがあることを知り、どんな工夫があると良いのか?を知ることがとても大切です。